

CLUSTERPRO[®] X *for Windows*

PPガイド

(ウィルスバスターコーポレートエディション)

2011.09.05
第1版

CLUSTERPRO

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2011/09/05	新規作成

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいませぬ。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO[®] X は日本電気株式会社の登録商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

トレンドマイクロおよびトレンドマイクロ株式会社の製品名称は、トレンドマイクロ株式会社の商標または登録商標です

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

その他のシステム名、社名、製品名等はそれぞれの会社の商標及び登録商標です。

目次

はじめに.....	v
対象読者と目的.....	v
適用範囲	v
本書の構成	v
CLUSTERPRO マニュアル体系.....	vi
本書の表記規則.....	vii
最新情報の入手先	viii
第 1 章 ウイルスバスター コーポレートエディション.....	1
環境構成概要.....	1
インストール前に確認、準備するもの	2
CLUSTERPROとウイルスバスターCorp.サーバ組み合わせインストール	3
CLUSTERPROとウイルスバスター Corp.クライアント組み合わせインストール.....	17
既知の制限事項.....	20
ウイルスバスター Corp.サーバアンインストール.....	22
サポートについて.....	24
本ドキュメントにおける使用用語説明.....	25

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO® PPガイド』は、クラスタシステムに関して、システムを構築する管理者、およびユーザサポートを行うシステムエンジニア、保守員を対象にしています。

本書では、CLUSTERPRO環境下での動作確認が取れたソフトウェアをご紹介します。ここでご紹介するソフトウェアや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、各ソフトウェアの動作保証をするものではありません。

適用範囲

本書は、以下の製品を対象としています。

CLUSTERPRO X 3.0 for Windows

本書の構成

第 1 章 「ウイルスバスター コーポレートエディション」:
ウイルスバスター コーポレートエディションについて説明します。

CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』(Getting Started Guide)

CLUSTERPRO を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール & 設定ガイド』(Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタ システムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンス ガイド』(Reference Guide)

管理者、およびCLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール & 設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』(Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム管理者、および統合WebManager の導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタシステム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注: は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s [-h host_name]</code>
モノスペースフォント (courier)	コマンド ライン、関数、パラメータ	<code>clpstat -s</code>
モノスペースフォント 太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code>clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>clpstat -s [-h host_name]</code>

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/clusterpro>

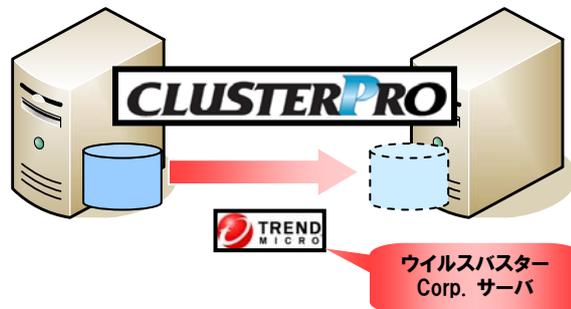
第 1 章 ウイルスバスター コーポレートエディション

環境構成概要

以下に、本手順でご説明する構成概要を記します。

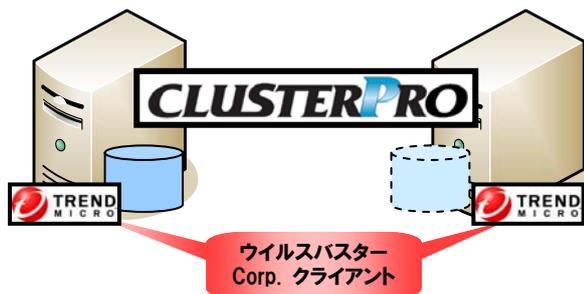
2 台のサーバでクラスタリングを構成します。

◆ Corp.サーバとの組み合わせ



CLUSTERPRO によって切替パーティションを設定します。本ドキュメントではこの切替パーティションを E ドライブとし、ウイルスバスター Corp.サーバは E ドライブにインストールします。

◆ Corp.クライアントとの組み合わせ



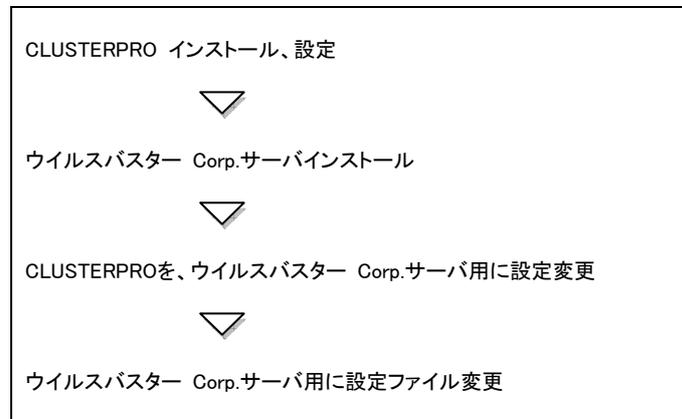
ウイルスバスター Corp.クライアントは C ドライブにインストールします。

インストール前に確認、準備するもの

- ◆ CLUSTERPRO、ウイルスバスター Corp.をインストールするハードウェア、ソフトウェアが、両製品のシステム要件を満たすこと。なお、本資料では OS が Windows 2008 R2であることを前提として記載しています。
- ◆ CLUSTERPRO X 3.0 for Windows インストール媒体
- ◆ CLUSTERPRO X 3.0 for Windows 最新版アップデート
- ◆ CLUSTERPRO X のライセンス
 - CLUSTERPRO X 3.0 for Windows
 - CLUSTERPRO X Replicator 3.0 for Windows (ミラーディスクを使用する場合に必用となります)
- ◆ ウイルスバスター コーポレートエディション 10.5
※CDROM もしくはインストールファイルを Eドライブにファイルを配置して
インストール実施
- ◆ CLUSTERPRO X 3.0 for Windows インストール&設定ガイド、リファレンスガイド
(CLUSTERPRO のインストール方法、操作方法、各種パラメータの説明などに関しては上記ガイドをご確認ください。)
- ◆ ウイルスバスターコーポレートエディション インストール&管理者ガイド
(クラスタ環境特有のインストール方法、調整以外の一般的なウイルスバスター Corp.のインストール方法、操作方法、設定に関しては上記インストールガイド、管理者ガイドをご確認ください。)
- ◆ ライセンス契約が有効なウイルスバスター Corp. 10.5 アクティベーションコード

CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバ組み合わせインストール

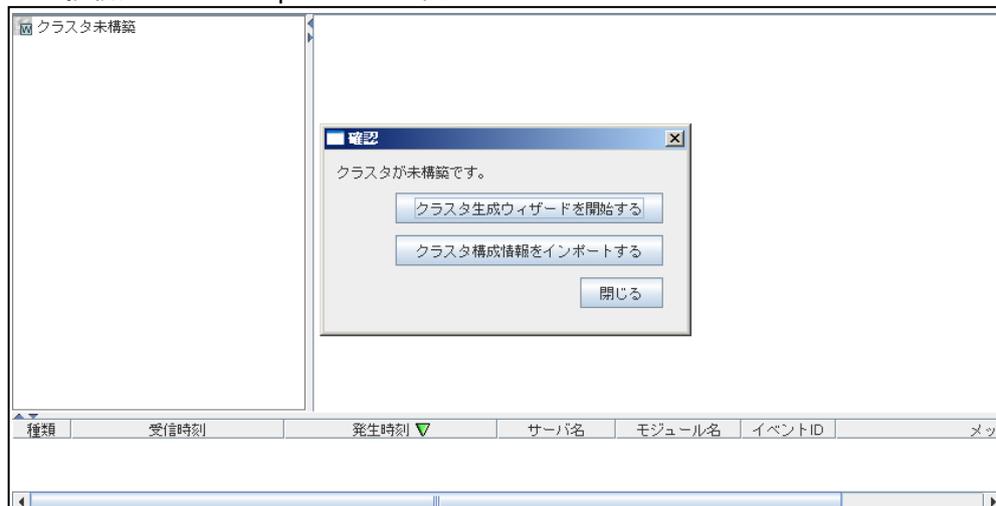
CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバの組み合わせインストールは、以下の手順で行います。



◆ CLUSTERPRO インストール手順

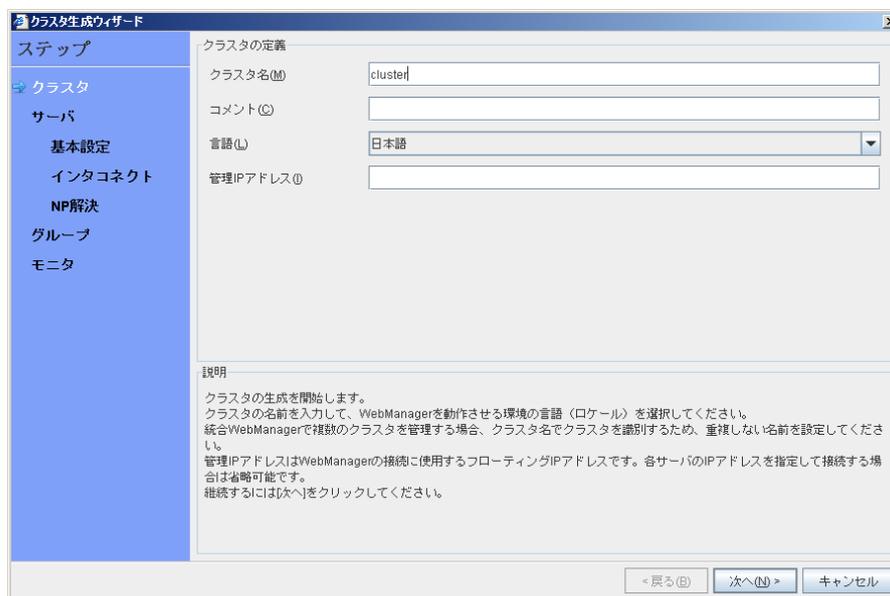
- クラスタリング両サーバ(サーバ A、サーバ B)に管理者権限でログイン可能なことを確認します。
- CLUSTERPRO をインストールします。(両サーバ)
インストール中にライセンスの登録を求められますので、CLUSTERPRO X 3.0 for Windows インストール&設定ガイドを参考に、それぞれのライセンスを登録してください。
- CLUSTERPRO 最新版アップデートを適用します。(両サーバ)
- OS を再起動します。(両サーバ)
- Java Runtime Environment がインストールされていない場合はインストールします。(両サーバ)
Java Runtime Environment Version 5.0 Update 6 (1.5.0_06) 以降を適用してください。
- Web ブラウザを起動し、Cluster Manager に接続します。

接続先アドレス”http://サーバの実 IP アドレス:29003”



➤ CLUSTERPRO の設定

Cluster Manager のダイアログにて「クラスタ生成ウィザードを開始する」をクリックするか、[ファイル]-[クラスタ生成ウィザード] を選択し、クラスタの設定を行います。



設定例

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)
クラスタ構成	クラスタ名	cluster	cluster
	サーバ数	2	2
	管理用グループ数	1	1
	フェイルオーバー グループ数	1	1
	モニタ リソース数	5	6
ハートビート リソース	カーネルモードLANハートビート数	2	2
サーバAの情報 (マスタ サーバ)	サーバ名	server1	server1
	インタコネク트의 IP アドレス (専用)	10.0.0.1	10.0.0.1
	インタコネク트의 IP アドレス (バックアップ)	192.168.0.1	192.168.0.1
	パブリックの IP アドレス	192.168.0.1	192.168.0.1
	COM I/F	COM1	-
	ディスク I/F	D:	-
	PingI/F	-	-
	多数決I/F	-	-
	ミラーコネク트의 I/F	-	10.0.0.1
HBA	共有ディスクに接続しているHBA	-	

CLUSTERPRO とウイルスバスターCorp.サーバ組み合わせインストール

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)	
サーバBの情報	サーバ名	server2	server2	
	インタコネクの IP アドレス (専用)	10.0.0.2	10.0.0.2	
	インタコネクの IP アドレス (バックアップ)	192.168.0.2	192.168.0.2	
	パブリックの IP アドレス	192.168.0.2	192.168.0.2	
	COM I/F	COM1	-	
	ディスク I/F	D:	-	
	PingI/F	-	-	
	多数決I/F	-	-	
	ミラーコネクI/F	-	10.0.0.2	
	HBA	共有ディスクに接続し ているHBA	-	
管理用グループ (WebManager 用)	タイプ	フェイルオーバー	フェイルオーバー	
	グループ名	ManagementGroup	ManagementGroup	
	起動サーバ	server1→server2	server1→server2	
	グループ リソース数	1	1	
管理用グループのグループリソース	タイプ	フローティングIPリソース	フローティングIPリソース	
	グループ リソース名	ManagementIP	ManagementIP	
	IPアドレス	192.168.0.11	192.168.0.11	
業務グループ	タイプ	フェイルオーバー	フェイルオーバー	
	グループ名	failover1	failover1	
	起動サーバ	server1→server2	server1→server2	
	グループ リソース数	3	3	
一つめのグループリソース	タイプ	フローティングIP	フローティングIP	
	グループリソース名	fip1	fip1	
	IP アドレス	192.168.0.12	192.168.0.12	
	二つめのグループリソース	タイプ	ディスクリソース	ミラーディスクリソース
		グループ リソース名	sd1	md1
		ディスクリソースドライブ文字	E:	-
		ミラーディスクリソース クラスターパー ティションドライブ文字	-	D:
		ミラーディスクリソース データパー ティションドライブ文字	-	E:
	三つめのグループリソース	タイプ	仮想コンピュータ名リ ソース	仮想コンピュータ名リ ソース
グループ リソース名		vcom1	vcom1	
仮想コンピュータ名		vcom	vcom	
対象FIPリソース名		fip1	fip1	

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)
一つめのモニタリソース	タイプ	フローティングIP監視	フローティングIP監視
	モニタリソース名	fipw1	fipw1
	NIC Link Up/Down を監視する	オン	オン
	対象リソース	fip1	fip1
	回復対象	fip1	fip1
	最大再活性化回数	1	1
二つめのモニタリソース (仮想コンピュータ名リソース作成後自動作成)	タイプ	仮想コンピュータ名監視	仮想コンピュータ名監視
	モニタリソース名	vcomw1	vcomw1
	対象リソース	vcom1	vcom1
	回復対象	cluster	cluster
	最終動作	クラスタサービス停止とOSシャットダウン	クラスタサービス停止とOSシャットダウン
三つめのモニタリソース (ミラーディスクリソース作成後自動作成)	タイプ	-	ミラーコネク特監視
	モニタリソース名	-	mdnw1
	ミラーディスクリソース	-	md1
	回復対象	-	md1
	最終動作	-	何もしない
四つめのモニタリソース (ミラーディスクリソース作成後自動作成)	タイプ	-	ミラーディスク監視
	モニタリソース名	-	mdw1
	ミラーディスクリソース	-	md1
	回復対象	-	md1
	最終動作	-	何もしない

※ 必要に応じて他の設定をします。(ディスクやネットワーク監視などの設定)

➤ 設定ファイルをアップロード

Cluster Builder にて、「ファイル」→「情報ファイルのアップロード」をクリックします。
アップロード操作の詳細については、CLUSTERPRO のマニュアル(構築ガイド)をご覧ください。

➤ ミラーリング自動開始(ミラーディスク使用時)

Eドライブが自動でミラーリング開始します。

一旦 Cluster Manager の「Monitors」が黄色に変わり(ミラーリング中)、ミラーリングが完了すると緑に変わります。

以上でウイルスバスター Corp.サーバインストール前の CLUSTERPRO の設定は完了です。

◆ ウイルスバスター Corp.サーバインストール前確認事項

- Eドライブに対して、サーバ A からのみアクセス可能な状態であること。
サーバ B から Eドライブへはアクセス不可の状態であること。

※逆にサーバ B の Eドライブがアクセス可能な場合は、Cluster Manager にて、作成した業務グループ全体を右クリックし、「移動」を選択し、サーバ A にフェイルオーバーします。

- 業務グループのリソースが全て起動済みであること。

◆ ウイルスバスター Corp.サーバインストール手順

- サーバ A よりインストールを開始します。方法としては以下の 2 通りです。

(1) ウイルスバスター コーポレートエディション 10.5 インストール CDROM より setup.exe を起動。

(2) 切替パーティションに設定した E ドライブにインストールファイルを置き、その中の setup.exe を起動。

※CDROM もしくは切替パーティション以外から setup.exe を実行した場合、アンインストール時に正常に動作しなくなる場合があります。その場合は手動でのアンインストールが必要となります。

[参考]手動アンインストール方法

<http://esupport.trendmicro.co.jp/pages/JP-2077945.aspx>

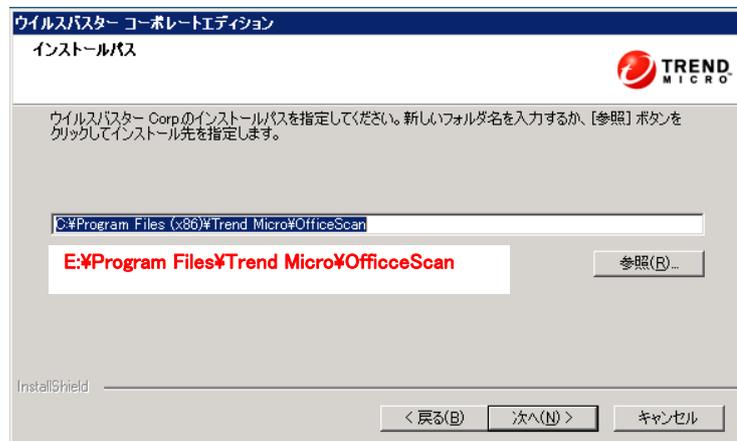
- 以下は setup.exe を起動後のウイルスバスター Corp.サーバインストールウィザードの解説です。サーバ A とサーバ B で全く同じ設定を行うため、最初のインストール設定をメモしておくことをお勧めします。

- ✓ インストール先:このコンピュータ
- ✓ コンピュータの事前検索:任意で選択
- ✓ インストールパス:

Eドライブ(切替パーティション)にインストールしてください。

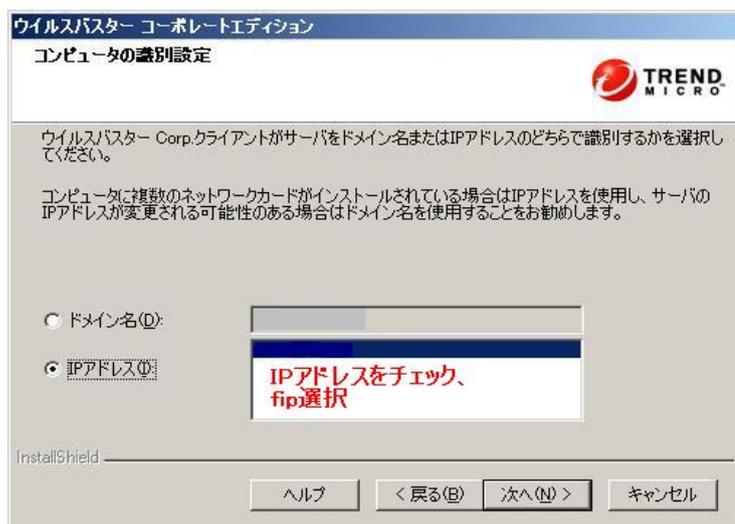
変更前:C:¥Program Files¥Trend Micro¥OfficeScan

変更後:E:¥Program Files¥Trend Micro¥OfficeScan



- ✓ プロキシサーバ: 任意で入力(インストールする環境による)
- ✓ Web サーバ: IIS を選択
- ✓ コンピュータの識別設定

「IP アドレス」をチェックし、フローティング IP アドレス(本ドキュメントでは 192.168.0.12)を選択します。



- ✓ 製品のアクティベーション:ご購入頂いたアクティベーションコードを入力してください。
- ✓ 統合 Smart Protection Server のインストール:SSL ポートを任意で設定(デフォルトでは 4345)
- ✓ Web レピュテーションサービスを有効にする:任意で選択
- ✓ 他のウイルスバスターCorp.プログラムをインストール:任意で選択
- ✓ Cisco Trust Agent アップグレード:任意で選択
(前ステップで Cisco Trust Agent インストールを選択した場合このステップが表示されません。)
- ✓ Smart Protection Network: 任意で選択
- ✓ 管理者アカウントのパスワード:任意で作成
- ✓ ウイルスバスターCorp.クライアントインストール

インストールパス:

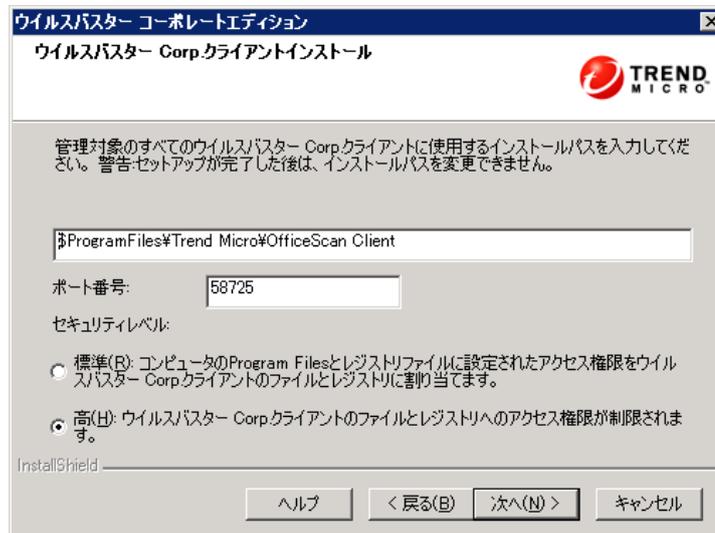
\$ProgramFiles\$Trend Micro¥OfficeScan Client(デフォルト)

ポート番号:

任意(例:58725 など。後ほどサーバ B へのインストール時これと同一にします。このポート番号はランダムで決定されるため、注意が必要です。)

セキュリティレベル:

任意でチェック



- ✓ ウイルス対策機能:
任意でチェック
- ✓ スパイウェア対策機能:
任意でチェック

- サーバ A にて、下記サービスを全て停止し、手動起動に変更します。
OfficeScan Master Service
- ウイルスバスター Corp.サーバフェイルオーバー
Cluster Manager にて、「CLUSTERPRO の設定」で作成した業務グループを右クリックし、サーバ B にフェイルオーバーさせます。
- ウイルスバスター Corp.サーバを、「ウイルスバスター Corp.サーバインストール手順」でサーバ A にインストールした手順と同じように、サーバ B でインストールします。
※パラメータは全てサーバ A と同一にします。
- サーバ B にて、下記サービスを全て停止し、手動起動に変更します。
OfficeScan Master Service
- CLUSTERPRO を、ウイルスバスター Corp.サーバ用に設定変更
✓ Cluster Manager にて、「設定」をクリックし、Cluster Builder を起動します。

設定例

「CLUSTERPRO の設定」で設定した設定例に以下のリソースを追加します。

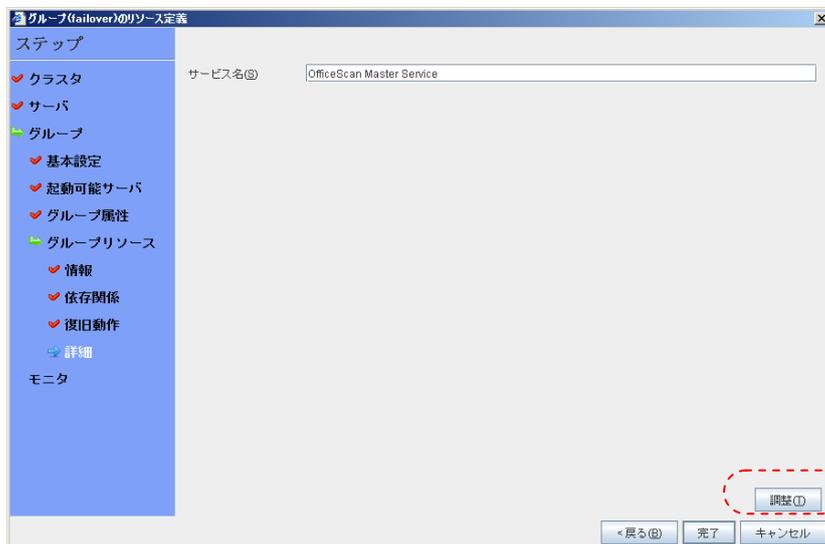
設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク、ミラーディスク共通)
業務グループ	タイプ	フェイルオーバー
	グループ名	failover1
	起動サーバ	server1→server2
	グループ リソース数	8
四つめのグループリソース	タイプ	レジストリ同期リソース
	グループリソース名	regsync1
	レジストリキー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥Database Backup HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥OfficeScan HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥Solar
五つめのグループリソース	タイプ	サービスリソース
	グループ リソース名	service_MasterService
	サービス名	OfficeScan Master Service
	対象VCOMリソース名 (本設定の詳細は後述)	vcom1
六つめのグループリソース	タイプ	スクリプトリソース
	グループ リソース名	script_corpSV_AD
	依存関係	service_MasterService
	start.bat, stop.bat	(start.batはデフォルトのまま、stop.batは後述)

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク、ミラーディスク共通)
七つめのグループリソース	タイプ	サービスリソース
	グループ リソース名	service_ADIntegrationService
	依存関係	script_corpSV_AD
	サービス名	OfficeScan Active Directory Integration Service
	対象VCOM!リソース名 (本設定の詳細は後述)	vcom1
	サービスが起動済みの場合、エラー としない (本設定の詳細は後述)	オン
八つめのグループリソース	タイプ	サービスリソース
	グループ リソース名	service_IIS
	サービス名	World Wide Web Publishing Service
五つめのモニタリソース	タイプ	サービス監視
	モニタリソース名	servicew_MasterService
	対象リソース	service_MasterService
	回復対象	failover1
	最大再活性回数	0
六つめのモニタリソース	タイプ	サービス監視
	モニタリソース名	servicew_ADIntegrationService
	対象リソース	service_ADIntegrationService
	回復対象	failover1
	最大再活性回数	0
七つめのモニタリソース	タイプ	サービス監視
	モニタリソース名	servicew_IIS
	対象リソース	service_IIS
	回復対象	failover1
	最大再活性回数	0

✓ サービスリソースの設定

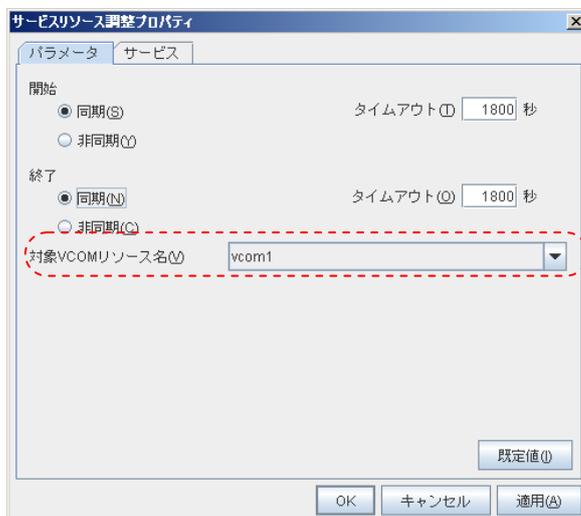
(service_MasterService、service_ADIntegrationService)

サービス名に、ウイルスバスター Corp.サーバのサービス名を設定し、[調整] ボタンを押します。



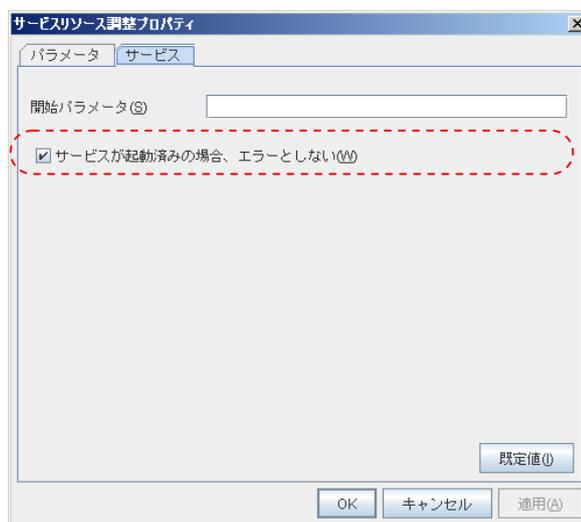
[サービスリソース調整プロパティ]画面が表示されます。

[対象 VCOM リソース名]に仮想コンピュータ名リソースを設定します。



(service_ADIntegrationService の設定のみ)

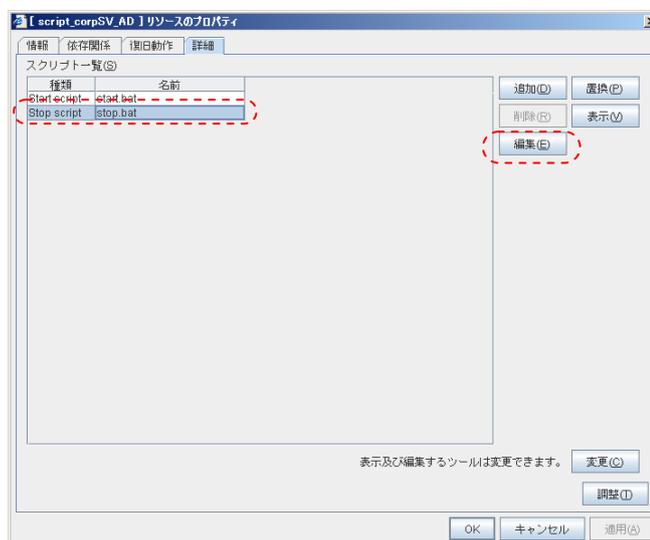
上記の設定に引き続き、「サービス」タブを選択し、「サービスが起動済みの場合、エラーとしない」にチェックを入れます。



✓ スクリプトリソースの設定 (script_corpSV_AD)

start.bat はデフォルトのまま変更しません。stop.bat のみ、次の手順で変更します。

Cluster Builder より、stop.bat を選択して「編集」ボタンをクリックします。



デフォルトの stop.bat スクリプトに対し、下記赤字で囲んだ行(2ヶ所)を追加します。

```

stop.bat(抜粋)
:
:
IF "%CLP_DISK%" == "FAILURE" GOTO ERROR_DISK
rem *****
rem 業務通常処理
rem *****

net stop "OfficeScan Active Directory Integration Service"

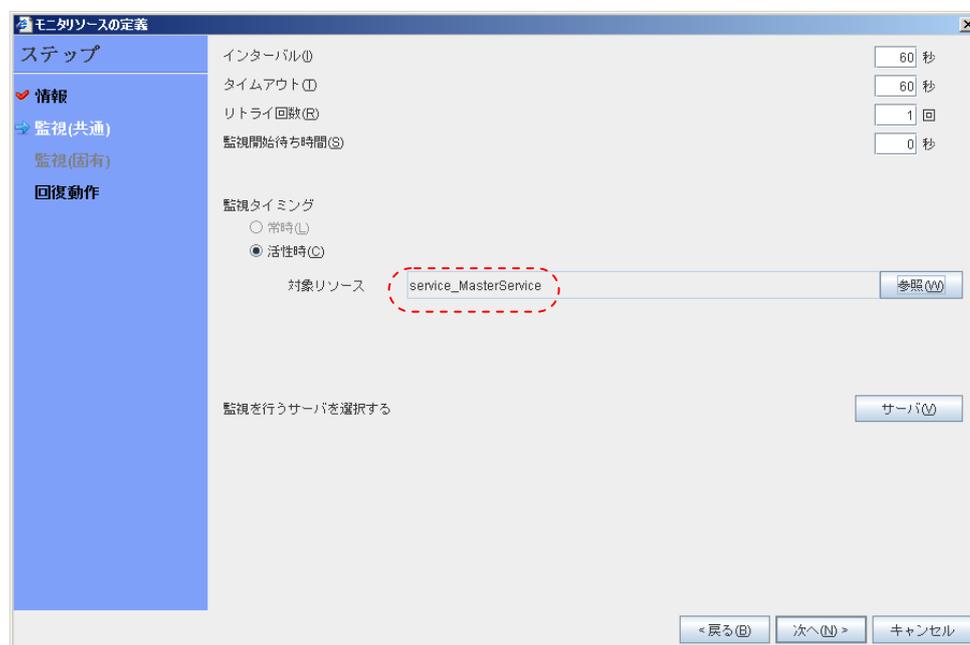
rem プライオリティ チェック
:
:
rem *****
rem フェイルオーバー対応処理
rem *****
:FAILOVER

net stop "OfficeScan Active Directory Integration Service"

rem ディスクチェック
:
:
    
```

✓ サービス監視リソースの設定

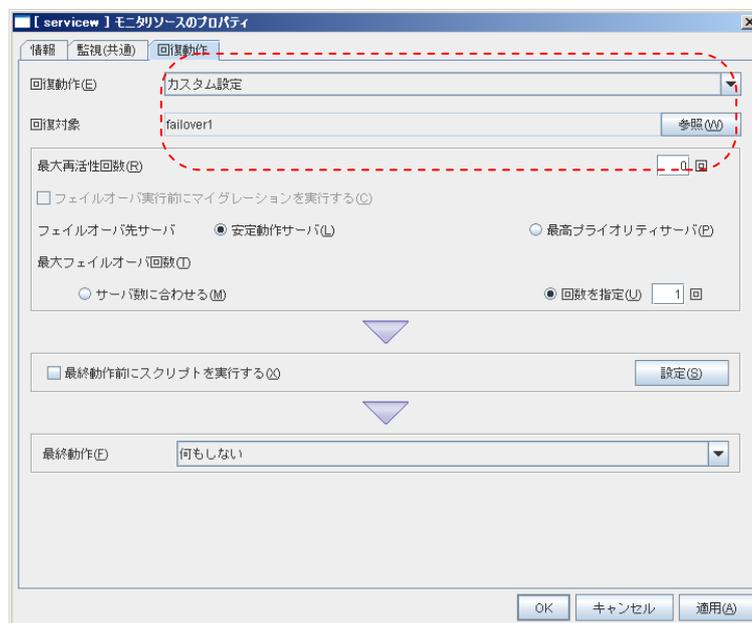
[参照]ボタンを押し、ウイルスバスター Corp.サーバのサービス名を設定したサービスリソースを選択します。



回復動作には「カスタム設定」を選択します。

[参照]ボタンを押して、[回復対象]に業務グループを選択します。

[最大再活性化回数]を 0 に設定します。



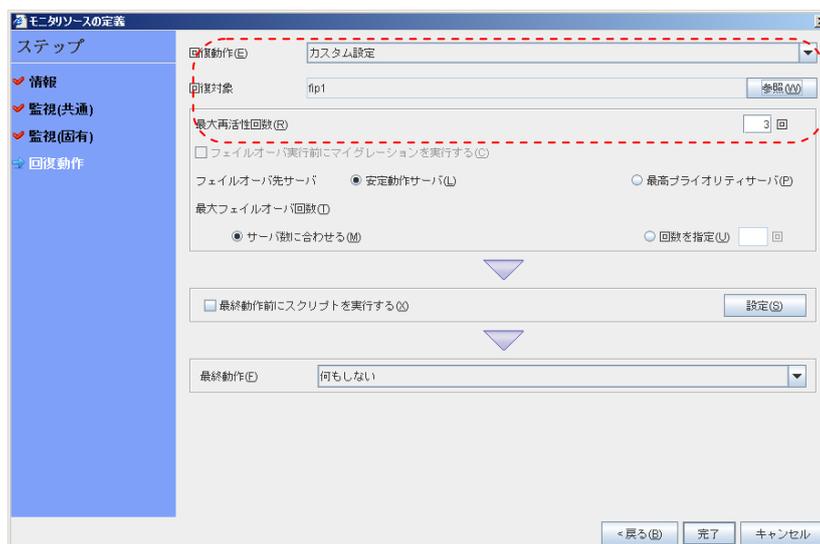
➤ 設定ファイルをアップロード

Cluster Builder にて、「ファイル」→「設定の反映」をクリックします。

※ その際、「グループを停止」、「クラスタサスペンド」を要求されます。画面の指示に従い、反映を行ってください。

アップロードが成功したら、クラスタリジューム、グループ起動を実施します。

- ◆ ウイルスバスター Corp.サーバ用に設定ファイル変更
 - フローティング IP 監視による fip の再活性化を有効化
 - ✓ Cluster Builder にて、フローティング IP 監視の「プロパティ」→「異常検出」より、回復対象の「参照」をクリックし、グループの fip が選択されていること、回復動作が「カスタム設定」であること、再活性化しきい値が 1 回以上に設定されていることを確認します。(3 回など)



- ofcscan.ini の変更
 - ✓ 「 E:¥Program Files¥Trend Micro¥OfficeScan¥PCCSRV¥ofcscan.ini 」の「MasterDirectory=¥¥<実サーバ名>¥ofcscan」の<実サーバ名>を、仮想コンピュータ名リソース(vcom)に設定した「仮想コンピュータ名」に変更します。

以上で、ウイルスバスター Corp.サーバのインストールは終了です。

CLUSTERPROとウイルスバスター Corp.クライアント組み合わせインストール

ウイルスバスター Corp.クライアントとの組み合わせで、CLUSTERPRO で設定することは特にありません。、ただし、CLUSTERPRO を運用しているサーバで、ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする際に注意点がございます。

◆ ウイルスバスター Corp.クライアントインストール時、後の注意点

※以下はサーバ A、サーバ B が、「CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバ組み合わせインストール」でインストールしたウイルスバスター Corp.サーバのウイルスバスター Corp.クライアントを追加インストールする場合について記述しています。また、ファイアウォール機能は、ウイルスバスター Corp. の Client/Server Suite Premium のみ提供される機能で、ウイルスバスター Corp. Client および Server Protection for Windows をご購入の場合は以下の作業は必要ありません。

- ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする場合、そのサーバ上で CLUSTERPRO で設定したグループが起動していないことを確認。

例:サーバ A にウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする場合は、ウイルスバスター Corp.サーバをフェイルオーバーしてサーバ B が active の必要があります。クラスタリング両サーバ(サーバ A、サーバ B)に管理者権限でログイン可能なことを確認します。

- NIC のバインド順に注意

- ✓ クラスタリング環境にあるサーバのため、NIC が複数存在します。

「マイネットワーク」右クリックにて、「詳細設定」→「詳細設定」→「接続」にて、実 IP アドレス用 NIC がハートビート用 IP より上段であることを確認します。

- ウイルスバスター Corp.クライアントインストール後、CLUSTERPRO からのアクセスを許可する為、NIC のファイアウォール設定を変更する必要があります。(ウイルスバスター Corp.でクライアントファイアウォールを使用する場合のみ本作業を実行。ファイアウォールを使用しない場合は必要ありません。)

- ✓ それぞれの NIC で許可する必要のあるポートは以下の通り

実 IP、フローティング IP を持つ NIC:

TCP29001、29002、29003、29004、29005、29007、

UDP29003、29007、29106

ハートビート用 NIC:

ICMP、TCP29001、29002、29003、29004、29005、29007、

UDP29003、29007、29106

- ✓ ウイルスバスター Corp.サーバ管理コンソールにて、「ネットワーク上のコンピュータ」→「ファイアウォール」→「ポリシー」にて、「追加」をクリック

名前→任意で入力

セキュリティレベル→中

ファイアウォール機能→全てチェック(デフォルト)

ソフトウェア安全性評価リスト→オフ(デフォルト)

「保存」をクリック

「ネットワーク上のコンピュータ」→「ファイアウォール」→「プロファイル」にて、「追加」をクリック

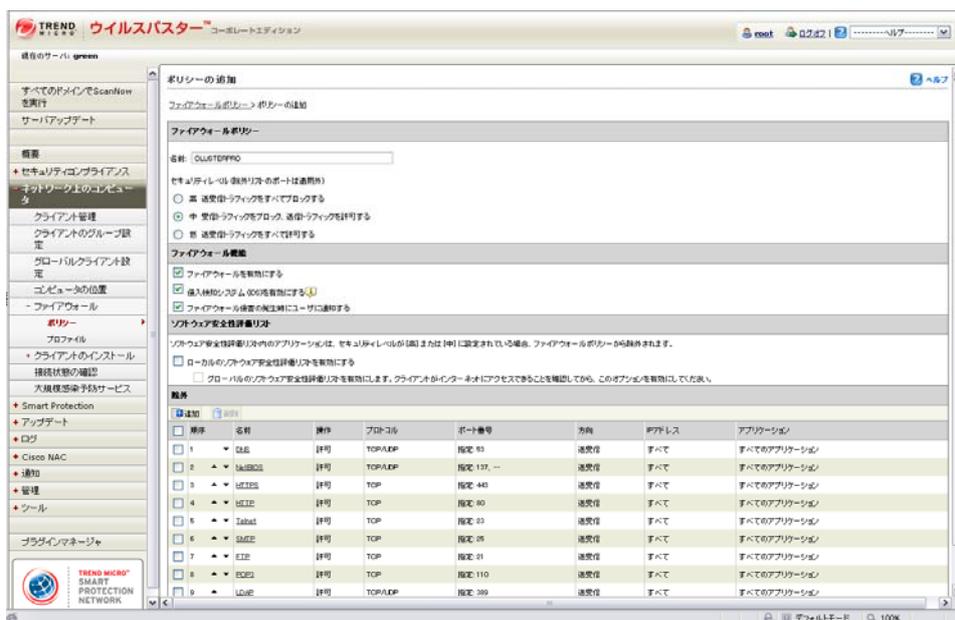
名前→任意で入力

ポリシー→任意で入力したポリシー名

その他、任意で必要情報(対象 IP アドレスなど)を入力

「保存」をクリック

その作成した「名前」及び「クライアントのセキュリティレベル/除外リストを上書き」をチェックして、「クライアントにプロファイルを割り当てる」をクリック



既知の制限事項

本手順でご説明した環境での既知の制限事項は次のとおりです。

【事項1】

ウイルスバスター Corp.クライアントをクラスタリングされたウイルスバスター Corp.サーバにインストールすると、ウイルスバスターCorp.コンソール上の「ネットワーク上のコンピュータ」→「クライアント管理」に表示されない。

【回避方法】

ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールするサーバを一度passiveにしてからインストールしてください。active状態でインストールした場合に本現象が発生します。本現象が発生した場合は、一度ウイルスバスター Corp.クライアントをアンインストールし、再インストールしてください。

【事項2】

ウイルスバスター Corp.コンソールにハートビート用NICで表示される。

【回避方法】

ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする際に、NICのバインド順を、「実IPアドレス用NIC」→「ハートビート用NIC」にしてください。

本現象が発生した場合は、一度ウイルスバスター Corp.クライアントをアンインストールし、再インストールしてください。

【事項3】

LANケーブルが抜ける等の通信障害が発生し、ウイルスバスター Corp.サーバのフェイルオーバーが発生した場合、クラスタサーバ上のCorp.クライアントからCorp.サーバへ通信不能になることがあります。

【回避方法】

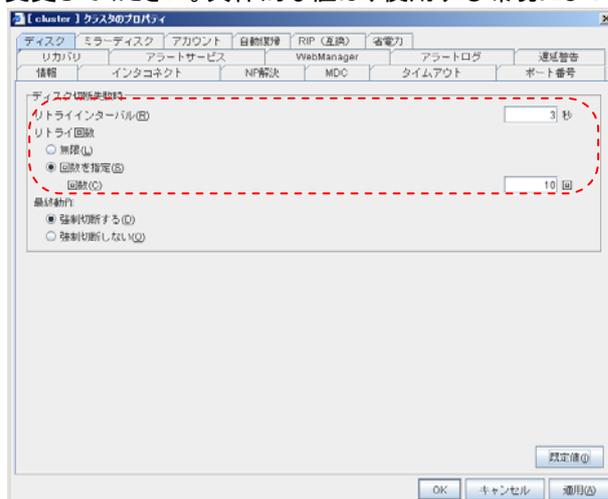
通信障害を復旧後、ウイルスバスター Corp.クライアントの通信状態をアイコンで確認し、オフラインの場合は「OfficeScan NT listener」サービスの再起動をしてください。

【事項4】

ウイルスバスター Corp.サーバのフェイルオーバー時、共有ディスクの切り離しがリトライ時間内に完了せず、強制切り離しとなる場合があります。

【回避方法】

ディスク切り離し時のリトライインターバルやリトライ回数を増やすことで回避が可能です。Cluster Builderにて、「クラスタプロパティ」→「ディスク」タブ(共有ディスク使用時) または「ミラーディスク」タブ(ミラーディスク使用時) を開き、「リトライインターバル」、「リトライ回数」の箇所を変更してください。具体的な値は、使用する環境によってチューニングを行ってください。



ウイルスバスター Corp.サーバアンインストール

- ◆ ウイルスバスター Corp.サーバアンインストール手順
 - 該当ウイルスバスター Corp.サーバに所属するウイルスバスター Corp.クライアントを全てアンインストール、もしくは他の Corp.サーバに所属させます。
 - サーバ A よりアンインストール
Cluster Manager にてサーバ A にフェイルオーバーした状態にします。
 - Cluster Manager にて、「CLUSTERPRO を、ウイルスバスター Corp.サーバ用に設定変更」にて作成した、以下のリソースを右クリックから停止する。
 - ・四つめのグループリソース(レジストリ同期リソース)
 - ・五つめのグループリソース(OfficeScan Master Service)
 - ・六つめのグループリソース(スクリプトリソース)
 - ・七つめのグループリソース(OfficeScan Active Directory Integration Service)
 - ・八つめのグループリソース(World Wide Web Publishing Service)
 - 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」より、ウイルスバスター Corp.サーバをアンインストールします。
 - サーバ B にて以下のレジストリ情報を削除
手動にて、以下の情報を削除します。

警告

レジストリはWindowsの構成情報が格納されているデータベースです。レジストリの編集内容に問題があると、システムが動作しなくなる場合があります。弊社ではレジストリの編集による如何なる問題に対しても補償いたしかねます。レジストリの編集はお客様の責任で行っていただくようお願いいたします。なお、レジストリの編集前には必ずバックアップを作成することを推奨いたします。バックアップ方法の詳細は、ご使用のWindowsのヘルプをご参照ください。

- ✓ レジストリキー
 - ・HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Trend Micro Inc.
 - ・HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro
¥Database Backup
 - ・KEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WoW6432Node¥TrendMicro¥OfficeScan
 - ・HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro¥Solar
 - ・HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Windows
¥CurrentVersion¥Uninstall¥OfficeScan Management Console-<サーバ名>
- ✓ IIS の情報を削除
 - 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」より「サーバ名」→「Web サイト」を展開し、「OfficeScan」、「Smart Scan Server」、「Local Web Classification Server」があれば削除します。

その他手動にてウイルスバスター Corp.サーバインストールの手順はトレンドマイクロサポートページ以下を参照してください。

<http://esupport.trendmicro.co.jp/pages/JP-2077945.aspx>

- Cluster Builder を起動し、「設定ファイルをアップロード」でウイルスバスター Corp.サーバ用に設定した残り全ての内容を全て削除、アップロード実行

サポートについて

- ◆ 本環境(CLUSTERPRO 上で動作するウイルスバスター Corp.)において問題等発生の場合は、まず CLUSTERPRO のご購入元にお問い合わせください。
- ◆ CLUSTERPRO としてのサポートにおいて、原因がウイルスバスター Corp.側であると判明した場合はトレンドマイクロがサポートいたします。
- ◆ ただし、お客様の CLUSTERPRO ならびにウイルスバスター Corp.のご購入元、サポート契約の有無によってサポートプロセスが変更となる場合がございますのでご了承ください。

本ドキュメントにおける使用用語説明

- ◆ 実 IP アドレス
そのサーバが active, passive 状態に関わらず常にインターネット接続用 NIC に所持する IP アドレスのこと。(OS インストール時などに設定されるアドレス)
- ◆ 実サーバ名
そのサーバが active, passive 状態に関わらず常に所持するコンピュータ名のこと。(OS インストール時などに設定されるコンピュータ名)
- ◆ フローティング IP アドレス
CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有する IP アドレスのこと。active のみ所持する。
- ◆ 仮想サーバ名
CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有するサーバ名。active 側のみ所持する。
- ◆ fip
「フローティング IP」の略で、CLUSTERPRO における仮想的な IP アドレスのこと。
- ◆ vcom
CLUSTERPRO における仮想コンピュータ名リソースのこと。